

学生へのメッセージ 「医の道」



No.35 令和5年6月5日(月) 2023-5号

発行責任者: 神戸総合医療専門学校・松江総合医療専門学校理事長、新須磨病院院長 澤田勝寛

isonare@ka2.so-net.ne.jp

令和3年(2021年)9月13日創刊

◆学生の皆さんへ

・**新学期**が始まり2か月が経ちました。医療を学ぶだけでも大変なのに、コロナで一層色々不便を感じていることでしょう。コロナは5類に格下げされ、色々な規制も解除されてきていますが、定点観測では増加傾向です。もうしばらく我慢しましょう。

・**1年生**は解剖生理に苦戦し、**2年生**は座学から実学へ移ることで不安をいだき、**3年生**は本格的な実習で緊張感が高まっていると思います。

でもそれは誰もが通る道で、皆さんの何十万という先輩たちがたどってきた道です。皆さんにできない訳がありません。めげない、逃げない、くじけないを唱えながら乗り切ってください。

・**いつも**、オープンキャンパスに協力していただき有難うございます。医学を志し本校を志望する高校生にとっては、本校の現役学生である、皆さんの話や立ち振る舞いが一番の参考になるようです。まだまだオープンキャンパスを開催予定です。これからもご協力をお願いします。

6月10日には隠岐にいったの出前オープンキャンパスを行なう予定です。私も大阪空港からの空路で参加する予定にしています。

◆医学の勉強 その2 臨床実習

英語でBed Side Learning (BSL)といい、ベッドサイドで学ぶことです。学生が実際に患者さんと対面し、診察の仕方や実際の治療方法、診療録の書き方、コミュニケーションのとり方といった臨床での患者さんとのやり取りを勉強するための授業です。学校の講義を座学とすれば、これは実学といえます。

医療の現場は学校にはない緊張感があります。老若男女、急性期から慢性期の患者さん、終末期の患者さんがいます。

色々な悩みや不安を抱え、自分の病気に向き合っている人ばかりです。そのような患者さんを中心にして、その患者さんの治療のために様々な医療職が協働しているのです。

ボクシングで例えるなら、学校での学びはシャドウボクシング、病院での学びはリングでの実戦のようなものです。

シャドーボクシングとは、リング外でグローブをはめて素振りをしたり、サンドバッグに打ち込んで練習をすることです。鏡を見ながら、構え方やパンチの出し方などを繰り返してトレーニングします。

そこで、ある程度技術が上がって初めて、リング上での実戦になります。今度は相手がいます。サンドバッグ相手ならこちらが打たれる心配はありませんが、実戦で相手がいるとこちらも打ち込まれます。いくらシャドウボクシングが上手くても、実戦となると力が発揮できないボクサーがいます。

医療の実習も同じです。学校で基本となる技術や知識を習得し、その上で臨地実習という病院実習が始まります。

学校での実習はいわばシャドウボクシングのようなもので、ここでしっかりと基礎技術を学び身につけることが重要です。その上で臨地実習という「実戦」が始まります。

患者さんを前にして、病院の実習担当の先生方に教わりながら、学校で学んだことを現場で発揮できるかどうかを確認するのです。

最初はかなり緊張します。学校という場のシャドウボクシングでできたことも、病院というリングにあがると、何もできなくなることも珍しくはありません。

そこで、自分の未熟さと、医療の厳しさを知ることができるのです。それを経験することで、医療の勉強に取り組む姿勢がガラッと変わるのが分かります。

本校は、病院実習前の学内実習の取り組みにも力を入れており、実習用シュミレーター SCENARIO (シナリオ) を設置しています。この人体模型はコンピューターを使って様々な病態を作り出し、それに対してどのような処置をするかを学べるという、優れたものの器械です。

皆さんはしっかりとシャドウボクシングで鍛え、リングに上がるようにしてください。

